



大田 洋二郎(おおた・ようじろう)氏
静岡がんセンター歯科・口腔外科部長
1986年、北海道大歯学部卒。第一口腔外科を経て88年国立がんセンター歯科医員。90年西独シュツトガルト・カタリネン病院で研修。2001年、国立がんセンター中央病院歯科・口腔外科部長。03～06年、がん研究助成金の研究班の班長、東京医科歯科大・北大非常勤講師

口腔ケアで減る合併症

がんの治療は「抗がん剤治療」「放射線治療」「外科手術」の三つに大きく分けられます。このすべての治療により口の内部にも影響が出る可能性があります。

例えば、舌がんの放射線治療を受けると唾液を出す細胞が動かなくなり、口の中が乾いて虫歯がでやすくなります。また、手術で口やのどの周りを大きく切除すると、約40%の傷口が細菌に感染したり開いたりしう細菌や、ヘルペスウイルスが増殖し口内炎が発生します。

手術で口やのどの周りを大きく切除すると、約40%の傷口が細菌に感染したり開いたりしう細菌や、ヘルペスウイルスが増殖し口内炎が発生します。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

がん と 歯周病

県立静岡がんセンター 歯科・口腔外科部長

大田 洋二郎氏

がんの治療は「抗がん剤治療」「放射線治療」「外科手術」の三つに大きく分けられます。このすべての治療により口の内部にも影響が出る可能性があります。

例えば、舌がんの放射線治療を受けると唾液を出す細胞が動かなくなり、口の中が乾いて虫歯がでやすくなります。また、手術で口やのどの周りを大きく切除すると、約40%の傷口が細菌に感染したり開いたりしう細菌や、ヘルペスウイルスが増殖し口内炎が発生します。

手術で口やのどの周りを大きく切除すると、約40%の傷口が細菌に感染したり開いたりしう細菌や、ヘルペスウイルスが増殖し口内炎が発生します。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

がんを学ぶ
～予防と検診から～

静岡県立静岡がんセンター公開講座第5弾「がんを学ぶ～予防と検診から～」(静岡新聞社・静岡放送、三島市民文化会館主催、県立静岡がんセンター共催、スルガ銀行特別協賛)の第5回講座が1月17日、三島市民文化会館で開講し、大田洋二郎歯科・口腔外科部長と、中川雅裕形成外科部長が、がん と 歯周病、がん治療とボディーメイクについて講演し、会場からの質問にも応答しました。その概要をお伝えします。

〈企画・制作/静岡新聞社営業局〉

実は、10年ほど前まで、抗がん剤治療をする際は、患者さん自身が歯を削り、歯磨き粉を使って歯を磨くという指導がありました。しかし、歯磨き粉に含まれる研磨剤が歯を傷つける可能性があることがわかり、現在は歯磨き剤を処方する際に、歯を傷つけないよう配慮した製品を使うように指導されています。

歯磨き粉は歯を傷つけないよう配慮した製品を使うように指導されています。また、歯肉炎や歯周病を防ぐためには、歯垢(プラーク)をしっかりと除去することが重要です。

歯肉炎や歯周病を防ぐためには、歯垢(プラーク)をしっかりと除去することが重要です。また、歯肉炎や歯周病を防ぐためには、歯垢(プラーク)をしっかりと除去することが重要です。

歯肉炎や歯周病を防ぐためには、歯垢(プラーク)をしっかりと除去することが重要です。また、歯肉炎や歯周病を防ぐためには、歯垢(プラーク)をしっかりと除去することが重要です。

歯肉炎や歯周病を防ぐためには、歯垢(プラーク)をしっかりと除去することが重要です。また、歯肉炎や歯周病を防ぐためには、歯垢(プラーク)をしっかりと除去することが重要です。

歯肉炎や歯周病を防ぐためには、歯垢(プラーク)をしっかりと除去することが重要です。また、歯肉炎や歯周病を防ぐためには、歯垢(プラーク)をしっかりと除去することが重要です。

がん に 特化した 形成外科

少しイメージしにくいですが「ボディーメイク」とは、形成外科での「再建」「修復」のことを指します。整形外科や美容外科と混同されることが非常に多いのですが、形成外科は、やけどや交通事故などによる外傷、体表面、顔面など皮膚にできた「できもの」などの治療、口唇裂や多指症といった小児の

形成外科は、やけどや交通事故などによる外傷、体表面、顔面など皮膚にできた「できもの」などの治療、口唇裂や多指症といった小児の

形成外科は、やけどや交通事故などによる外傷、体表面、顔面など皮膚にできた「できもの」などの治療、口唇裂や多指症といった小児の

形成外科は、やけどや交通事故などによる外傷、体表面、顔面など皮膚にできた「できもの」などの治療、口唇裂や多指症といった小児の

形成外科は、やけどや交通事故などによる外傷、体表面、顔面など皮膚にできた「できもの」などの治療、口唇裂や多指症といった小児の

形成外科は、やけどや交通事故などによる外傷、体表面、顔面など皮膚にできた「できもの」などの治療、口唇裂や多指症といった小児の

形成外科は、やけどや交通事故などによる外傷、体表面、顔面など皮膚にできた「できもの」などの治療、口唇裂や多指症といった小児の

形成外科は、やけどや交通事故などによる外傷、体表面、顔面など皮膚にできた「できもの」などの治療、口唇裂や多指症といった小児の

がん治療と「ボディーメイク」

県立静岡がんセンター 形成外科部長

中川 雅裕氏

がんの治療は「抗がん剤治療」「放射線治療」「外科手術」の三つに大きく分けられます。このすべての治療により口の内部にも影響が出る可能性があります。

例えば、舌がんの放射線治療を受けると唾液を出す細胞が動かなくなり、口の中が乾いて虫歯がでやすくなります。また、手術で口やのどの周りを大きく切除すると、約40%の傷口が細菌に感染したり開いたりしう細菌や、ヘルペスウイルスが増殖し口内炎が発生します。

手術で口やのどの周りを大きく切除すると、約40%の傷口が細菌に感染したり開いたりしう細菌や、ヘルペスウイルスが増殖し口内炎が発生します。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

◆ 質疑応答 ◆



中川 雅裕(なかがわ・まさひろ)氏
静岡がんセンター形成外科部長
1991年愛媛大医学部卒。93年東京大形成外科、94年自治医科大形成外科を経て、2001年東京大学大学院医学系研究科外科学専攻博士課程終了。2002年埼玉医科大形成外科講師、同年4月より現職。日本外科学会専門医。日本形成外科学会専門医。専門はマイクロサージャリー、再建外科。

がんの治療は「抗がん剤治療」「放射線治療」「外科手術」の三つに大きく分けられます。このすべての治療により口の内部にも影響が出る可能性があります。

例えば、舌がんの放射線治療を受けると唾液を出す細胞が動かなくなり、口の中が乾いて虫歯がでやすくなります。また、手術で口やのどの周りを大きく切除すると、約40%の傷口が細菌に感染したり開いたりしう細菌や、ヘルペスウイルスが増殖し口内炎が発生します。

手術で口やのどの周りを大きく切除すると、約40%の傷口が細菌に感染したり開いたりしう細菌や、ヘルペスウイルスが増殖し口内炎が発生します。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

手術でも同様です。舌がんの手術をする際、切り取った舌の代わりに他の体の一部を移植することがあります。しかし口内炎や、舌が腫れる口内炎があらわれ、痛みだけでなく、味覚も変わり、食欲も落ちています。さらに、口の中の細菌が増え、歯肉炎や歯周病の原因になります。

術の翌日から看護師と歯科の研究医がICU(集中治療室)でクリーニングを行います。一般病棟に戻ってきてもしっかりとチェックは欠かしません。

その効果は歴然としていますが、術後の合併症リスクを低減させることが重要です。

術後の合併症リスクを低減させることが重要です。また、術後のケアも非常に重要です。

また、術後のケアも非常に重要です。術後の経過観察も大切です。

術後の経過観察も大切です。また、術後のケアも非常に重要です。

また、術後のケアも非常に重要です。術後の経過観察も大切です。

また、術後のケアも非常に重要です。術後の経過観察も大切です。

また、術後のケアも非常に重要です。術後の経過観察も大切です。